

第4回

なんでそんなんエキスポ

佐賀

SONNAN  
EXPO



よくわからないものに  
ツッコを入れて  
楽しむ博覧会



NANDESONNAN EXPO SAGA VOL.4

2025.11/1 (土) — 2026.1/25 (日) 10:00- 17:00 (入館は16:30まで)

会場 = 佐賀大学美術館 (佐賀県佐賀市本庄町1) 入館 | 無料

休館日 | 月曜日 (祝日の場合、翌火曜日休館)、2025.12/28 (土) ~ 1/6 (水)、2026.1/17 (土)、18 (日)

主催 | 佐賀大学美術館 協力 | なんでそんなんプロジェクト / 株式会社ぬか / 放課後等デイサービス ホハル

佐賀大学美術館  
SUAM

SAGA UNIVERSITY ART MUSEUM



# 第4回 なんてそんなんエキスポ 佐賀

よくわからないものにツッコミを入れて楽しむ博覧会



## 事例 / CASE

### 1 水の水割り

作者 | 愛子ママとチッチキチキオ 発見者 | 始動員 T

神の舌を持つチッチキチキオ君は、学校の給食を一切口にしない。なので、午後になると空腹に耐え切れず、帰宅しようと脱走を図ることが度々あった。「体のために一口でもいいから給食を食べなさい」保健室の先生の指導から逃れようと、ある日、通級指導教室に避難してきたチキオ君。そして、職員室前廊下で「腹減った〜」と転がまる彼に、窓からコップ一杯の水を差し出したのは愛子教諭。「塩紙めて、水の水割りでも飲んでいきな」愛子教諭に促されるまま塩を紙め、水の水割りを一気に飲み干すと、笑顔になったチキオ君。以後、職員室の窓口に『スナック愛子』に模様替えしたところ、チキオ君は毎日顔を出し、キープソルトをするほどの常連客となった。そして、水の水割りと愛子ママの愛で身も心も満たされたのか、脱走を図ることはなくなった。



第5回  
なんてそんなん大賞  
大賞  
GRANDPRIX



### 2 葉っぱの手紙

作者 | マルシト 発見者 | キヨシト

今までの人生でこんな洒落な手紙をもらったことがあっただろうか。from 我が息子からだと思うと、嬉しさもひとしおである。いつの間にこんな気の利いた事が出来るようになったのだろう。しかし息子よ、想像するんだ。あなたの問いに、今この場でどうやって答えればよいのか見当もつかず、玄関前で立ち尽くす父の姿を。通りに面した自宅玄関ベンチに打ち捨てられたあなたの遺物を、ご近所さんの目を気にして、いそいそと片付ける父の背中を。

2

第5回  
なんてそんなん大賞  
笠野由布子賞  
YUKO KASANO  
AWARD



## お問合せ | INFORMATION

### 佐賀大学美術館

住所 | 〒840-8502 佐賀市本庄町1番地  
TEL | 0952-28-8333 FAX | 0952-28-8215  
開館時間 | 10:00 ~ 17:00 (最終入館: 16:30)  
休館日 | 月曜日 (祝日の場合は翌火曜日、展示替え等)  
2025. 8/13 (水) ~ 8/15 (金)  
2025. 12/28 (土) ~ 1/6 (水)、2026. 1/17 (土)、1/18 (日)



佐賀大学美術館  
WEB

### なんてそんなんプロジェクト

Email | contact@nandesonnann.com  
WEB | nandesonnann.com  
FB | facebook.com/nandesonnann.project  
Insta | instagram.com/nande\_son\_nan



## なんてそんなんプロジェクト

<https://nandesonnann.com>



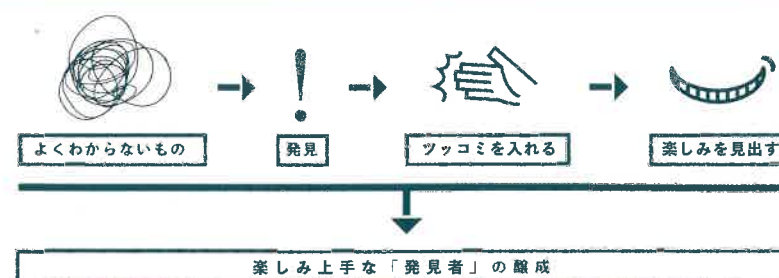
人の行為から生まれる「よくわからないもの」を断絶し、排除するのではなく、または、「無理にわかり合おうとするのでもなく」、想像力を駆使して「分からなさを楽しむこと」。「なんてそんなん」な行為や痕跡に注目するだけでなく、「なんてそんなん」を見つける「発見者」の育成をすることで生きやすい社会を目指します。多様な見方を考える「オンラインセミナー事業」などを実施。「ぬかつくるところ」が2020年度より初めたプロジェクトです。

## ぬかつくるところ

<http://nuca.jp>



「ぬかつくるところ」は生活のケアを柱として、アートを活用した自分らしい生活をおくることのできる福祉事業所です。正面から捉えるとひるんでしまうことも、ちょっと角度を変えてみれば、だれも気付かなかった価値が生まれたりする。そういった価値や個々の魅力が「ぬか漬け」のように時間をかけてゆっくりと発酵し、社会へと広がって行くことを願って運営しています。





## 関連イベント 第6回 なんでそんなん大賞

投稿いただいた「なんでそんなん事例」を対象に「第6回なんでそんなん大賞」の選考を行います。「優れた事例」を「選ぶ」ことに注力するだけでなく、「発見者」と行為者の関係性」に注目し、丁寧に語り合いながら選考いたします。大賞賞品は米一俵！皆さんのご応募お待ちしております！

**応募期間** 2025年8月1日（金）～2025年11月15日（土）

**発表** 2025年11月23日（日）結果はホームページまたはSNSにて公表します

**対象** 全ての人を対象にします（年齢・性別・国籍・障害の有無などは問いません）

**参加費** 無料・投稿回数無制限 | 同じ名義で何度でもご投稿いただけます

**賞品** 大賞 | 米1俵（60kg） 審査員賞 | 各審査員セレクトの品

**投稿先** <https://nandesonnan.com/post/>  
なんでそんなんプロジェクト HP 投稿フォームよりご投稿ください



### 松村圭一郎 Keiichiro Matsumura

文化人類学者。岡山大学准教授。エチオピアの農村や中東の都市部などで、富の所有と分配、貧困や開発援助、海外出稼ぎなどについて研究。著書に『所有と分配の人類学』（ちくま学芸文庫）、『うしろめたさの人類学』（ミシマ社）、『くらしのアナキズム』（ミシマ社）など。エチオピアの村で映像作品をつくり、東京ドキュメンタリー映画祭2018で『マッガビット 雨を待つ季節』、同映画祭2020で『アッパ・オリの一日』が上映された。



### レオナルド・バルトロメウス Leonhard Bartolomeus

山口情報芸術センター（YCAM）のキュレーター。ジャカルタ芸術大学を卒業後、2019年に山口に移住するまでアート・コレクティブ「ルアンルパ（ruangrupa）」『Gudskul Ekosistem』に所属。同コレクティブで活動する中で、アート、教育、コミュニティ・エンゲージメントの交差点に興味を持つようになる。『あそべる図書館—Speculative Library（2023）』、『飯田街道聞き取りアートプロジェクト（2024）』、『Dance Floor as Study Room—したたかにたゆたう（2024）』など多くのキュレーション・プロジェクトに取り組んできた。



### 花田伸一 Shinichi Hanada

北九州市立美術館学芸員、フリーランスを経て2016年より佐賀大学。主な企画『6th 北九州ビエンナーレ〜ここのはじまり』『千草ホテル中庭 PROJECT』『ながさきアートの苗プロジェクト 2010 in 伊王島』『街じゅうアート in 北九州 2012 ART FOR SHARE』『ちくごアートファーム計画』『佐賀モバイル・アカデミー・オブ・アート』。企画協力『第5回福岡アジア美術トリエンナーレ 2014』『釜山ビエンナーレ 2014 特別展』他。韓国、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム美術調査。



### 藤井るみ子 Rumiko Fujii

劇団 AFRICA 団長。双子を含む3人の母。西アフリカ・ギニア共和国での経験をもとに世界各国にジャンベの学校 TTMDA チーフダンスインストラクターとしてアジアを駆け回りながら、幼児教育プログラム、アフリカダンス検定等を開発し、西アフリカ伝統芸能の普及に努めている。ジェンベなどアフリカの伝統打楽器からなる楽団と、エネルギー豊かなアフリカダンスを展開する舞踏団「劇団 AFRICA」を主宰。



### 柳沢秀行 Hideyuki Yanagisawa

公益財団法人大原芸術財団シニアアドバイザー。なんでそんなんプロジェクトアドバイザー。筑波大学芸術専門学群芸術学専攻卒業。1991年～岡山県立美術館。2002年～大原美術館。日本の近現代美術史研究を基軸に美術（館）と社会の関係についての調査、実践を行う。絵画や彫刻のようにモノとして存在するアートのみならず、世界の姿をみつめ、再認識を促すアートの在り方にも関心を持つ。



### 滝沢達史 Tatsushi Takizawa

1972年生まれ。多摩美術大学卒業後、10年間特別支援学校の美術教諭として勤務。以後、美術家として日本各地のアートプロジェクトに参加。地域課題から教育・福祉など多岐にわたる活動を展開。近年では、不登校・ひきこもりの協働「表現の森」（アーツ前橋）や、自身で立ち上げた児童福祉施設「ホタル」の代表を務めるなど、教育と福祉を面白おかしく模索中。なんでそんなん大賞には第一回から審査員として参加。なんでそんなんエキスポではディレクションを担当している。



司会・本展ディレクター

## 関連イベント なんでそんなんノンクロン

**日時** 2025年11月23日（日）13:00 - 15:00

**会場** 佐賀大学美術館集合 詳細は10月以降WEBにて  
<https://museum.saga-u.ac.jp/> **参加費** 無料

**登壇者**  
松村圭一郎（文化人類学者）  
レオナルド・バルトロメウス（YCAM・キュレーター）  
藤井るみ子（劇団 AFRICA 団長）  
花田伸一（佐賀大学芸術地域デザイン学部教授）  
柳沢秀行（公益財団法人大原芸術財団シニアアドバイザー）

2020年から始まった「なんでそんなん」とは何なのか？学術や文化に関わる経験豊かな登壇者を迎え、社会課題から日常まで、ユーモアによる新たなコミュニケーションの可能性を探ります。

\*「ノンクロン（Nongkrong）」とは、インドネシア語で「仲間とゆっくりおしゃべりしたり、お茶を飲んだりすること」を意味する言葉です。ぜひ皆さんで気軽に「なんでそんなん」を語りましょう。

## 関連イベント ツッコミツアーズ

**日時** 2025年11月2日（日）13:30 - 14:30

**会場** 佐賀大学美術館 **参加費** 無料

**ツアーリスト**  
滝沢達史（美術家・本展ディレクター）  
中野厚志（ぬかつくるとこ代表・なんでそんなんプロジェクト主宰）

### なんでそんなんエキスポ会場を巡るツッコミ解説ツアー！

なんでそんなんプロジェクト発起人である中野厚志と、なんでそんなんエキスポ・ディレクターの滝沢達史によるギャラリートツアーです。実際の展示物を鑑賞しながら皆さんと一緒にツッコミましょう。